

一般質問

質 問 者	会	志	(創	男	武	見	人
	ラ	研	政	夫	達	井	新
	ブ	ク	(公	肇	久	之	山
	会	明	(創	人	芳	内	北
	生	ク	(フ	江	泰	川	小
	派)	ラ	ォ	彦	享	滝	井
	会)	ム	(無	大	賢	田	森
	派)	桐	(創	一	英	山	福
	会)	生)	(政	規	崇	島	飯
	派)	会)	(無	文	由	島	相
	会)	志	(創	紀	光	沢	庭
	派)	会)	(無	好	幸	山	佐
	会)	志	(創	雄	二	藤	佐
	派)	会)	(政	修	秀	藤	周
	派)	会)	(公	乘	康	東	渡
	派)	会)	(無	雄	木	辺	西
	派)	会)	(無		伏	牧	伏

6月27日(月)・28日(火)の2日間にわたり、17人の議員が一般質問を行い、市政全般にわたる問題について、市当局の見解を求めました。

※氏名の後のカッコ内は所属党派名(無党派は、会派に属さない議員)

地域防災計画

人見 武男(創志会)
質問 東日本大震災時の同計画に基づいた対応は、(震災対策用飲料水貯水槽)



答弁 桐生市災害対策本部を設置して直ちに職員配備体制を取り、被害状況の確認、相談対応、避難所開設など計画に則って行った。
質問 水や食糧の備蓄、市有施設の耐震化や住民情報のデータの管理状況は。
答弁 水をタンクに三百八十トン確保しているほかペットボトルや食糧約三万三千食を備蓄している。市有施設の耐震化率は七十三・五パーセントであり、住民情報は庁外のデータセンターと庁舎内サーバー室において二重管理している。

道路整備事業

新井 達夫(政研クラブ)

質問 黒保根町桑の代地区は、毎年落石などによる工事により大間々町經由でないと水沼地区に行けなくなるがその対策は。また、国道百二十二号線通行止め時の対策は研究しているか。
答弁 桑の代地区は、過去に法面の崩落により孤立した経緯がある。この対策として、渡良瀬川に国道百二十二号線と県道根利八木原大間々線を結ぶ橋を架けることは、今後県に打診し



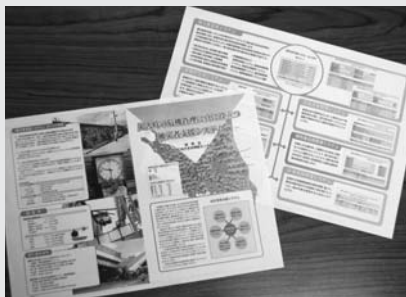
(県道根利八木原大間々線)

たい。また、国道のバイパス的な役割を持つ渡良瀬川道路について、県や関係自治体と勉強会を設置し、研究に取り組んでいきたい。

大規模災害に備えた危機管理

山之内 肇(公明クラブ)
質問 阪神淡路大震災を教訓に開発された「被災者支援システム」は、罹災証明書が発行や義援金、救済物資の管理など、被災者の情報を一元管理できるため迅速な行政サービスの提供ができる。「災害に強いまちづくり」への取り組みのためにも、低コストな同システムを導入してはどうか。

答弁 同システムについて、効率的な事務処理が可能という認識はあったが、



導入を検討するまでには至らなかった。今後は今回の震災を踏まえ、有効性を十分に把握したうえで、導入に向けて対応していきたい。(被災者支援システム)

伝建とまちづくり

北川 久人(創志会)

質問 本町一・二丁目の重伝建地区をどう位置付け、まちづくりに生かすのか。
答弁 重伝建地区選定が最終目標ではなく、住民と行政が一体のまちづくりが基本と考える。また、地区内の建造物に対しては、歴史まちづくり法による国や県の事業導入も期待できる。

質問 伝建への理解を深めるなどの周知方法とコンセンサスの取り方は。
答弁 この地区が重伝建



制度の活用により活性化し、桐生市が元気再生に繋がることを、広報きりゆうやホームページなど様々な媒体により広報していきたい。(本町通り)

保育園や学童保育の休日保育

小滝 芳江（ラフォーラム桐生）

質問 自動車関連企業が七月から九月まで土日勤務となるが、保育園や学童保育の休日保育についてどう考えるのか。

答弁 保育園については、関係する児童が通園している園での対応と考えているが、休日保育が難しい場合は、保育園間での連携を考えている。学童保育については、既に土曜開所しており、新たに日曜日の対応が必要となるが、夏休み中の

（市内の保育園）



指導員確保が困難なため現段階では難しいので、桐生ファミリースポーツセンターの活用などを周知していく予定である。

踏切の拡幅改良

福島 賢一（政研クラブ）

質問 富士山下駅から天王宿駅間の市道と交差する

（上電踏切）



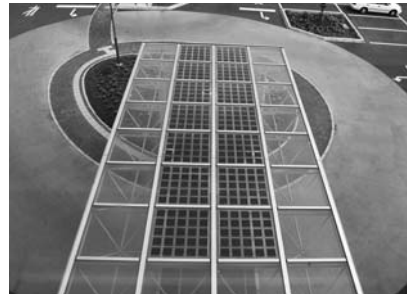
踏切の拡幅改良については、**答弁** 過去において種々の経過があったことは認識しており、その都度、改善を図ってきたが、狭小道路を含めた道路が鋭角となっ

ていることから、抜本的な改良が必要と考えている。再度、上毛電鉄に踏切改良の確認をしたところ、他の踏切を閉鎖しなければ難しいとの回答であった。しかし、安全に通行できる道路整備を進めるうえで、踏切改良は必要と考えるので、今後も上毛電鉄と改善に向けた研究をしていきたい。

太陽光発電設備設置補助

井田 泰彦（無党派）

質問 申込状況、年度内の補助枠拡大、来年度以降の



の補助の考えは。

答弁 申込状況は、五十五件の枠のうち、六月二十日現在で三十八件となっている。年度内の補助枠拡大については、他市の動向を踏まえ、新たな国・県の財源の活用ができるよう努めたい。来年度以降の補助については、引き続き補助できるよう検討していきたい。

質問 太陽光発電システムと省エネルギー設備を同時に設置した場合に対象となるが、太陽光発電システムのみの補助はできないか。

答弁 検討していきたい。

原子力発電問題

飯島 英規（無党派）

質問 市長は、今後の原子力発電をどう考えるか。

答弁 資源の乏しい我が国にとって、現在の発電量の約三割占める原発を直ちに止めることは非現実的なことであり、軽々に感情論として論ずべきでないことは十分承知している。

私個人としては、安全神話が崩れた今、全ての原発を直ぐにでも止めてもらいたいというのが本音であり、強い思いである。

（放射線量測定の様子）



今後、国に対し、代替エネルギーを中心としたエネルギー計画を早急に立てるよう市長会などを通じ、訴えていきたい。

地域主権改革

森山 享大（創志会）

質問 真の分権型社会の実現を目指すため、国から自治体へ権限移譲される地域主権関連の一括法案が可決成立後の取り組みは。

答弁 可決成立後の対応だが、平成二十四年四月一日から、既に移譲されているものも含めて約五十程度の事業が権限委譲されるようであり、これらの事務については、既に担当課に周知している。しかし、移譲される事務内容や事務量が

（桐生市役所）



はつきり見えてこない状況であるが、県と連携を取るなどにより、遺漏なく権限委譲が行われるよう取り組んでいるところである。

小水力発電

相沢 崇文（創志会）

質問 本格事業化に向けた課題に水利権取得がある。その対応については。

答弁 水利権緩和に向け、総合特区制度の活用も視野に入れ検討していきたい。

質問 事業化はいつ頃か。

答弁 総務省から「改革モデル実証調査」の提案募集があり、六月十五日に応募した。応募結果は七月に出る予定だが、その可否に関わらず、昨年度の調査で得られた成果を活用し、

（利平茶屋小水力発電所）



事業実現に向けた課題や解決方策の抽出、検証を行い、緑の分権改革のモデルとなりうるような取り組みを考えていきたい。

職員評価

庭山 由紀（無党派）

質問 五月十三日、十六日に実施した放射線量測定値を公表しないのはなぜか。

答弁 データとしての正確性、信頼性に欠けるため公表しなかった。

質問 市民のために仕事をしない職員は、評価を勤勉手当に反映しなくてはいいかないと法律にある。職員の評価をするのは部長だが、部長の評価は誰がするのか。嘘をついたり情報を隠ぺいするような部長は、市長が



（桐生市役所）

評価してボーナスを大幅にカットしていただきたい。

答弁 部長の勤務評定はできてない。今後、先進地を参考に研究していきたい。

自主防災組織の充実を

周東 照二（公明クラブ）

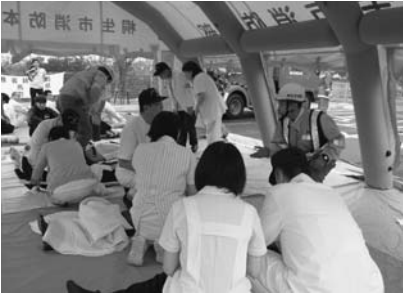
質問 防災会の組織率は。 **答弁** 区単位五、町会単位八、計十三の自主防災会が結成され、三十六・三パーセントの組織率である。

質問 活動状況は。

答弁 避難・消火訓練や救急講習、防災の勉強会や講演会などを実施している。震災時には避難誘導や被害状況調査なども行った。

質問 組織結成とリーダー育成をどう推進するか。

答弁 自主防災意識を持



（災害救助訓練）

って活動に取り組むよう区長会を通じて呼び掛けるとともに、防災リーダー育成講習や年一回以上の訓練の実施を指導していきたい。

埋立地の有効活用

佐藤 光好（創志会）

質問 相生町四丁目蕪町広場裏側の最終処分地は、（廃棄物最終処分場跡地）



埋め立て終了後も水質汚濁の未然防止に努めているか。

答弁 浸出水処理施設からの放流水の測定を月一回七項目、年一回三十四項目について行い、環境保全に努めている。

質問 埋立完了地を運動場として利用できないか。

答弁 埋立地は蕪町広場と隣接していることから、蕪町広場と一体化した活用を図ることも有効な方法と考えられるので、そのような利用が可能かどうか関係機関と協議するなど検討していきたい。

住宅リフォーム助成

渡辺 修（無党派）

質問 助成制度創設に向けた取り組みは。

答弁 東日本大震災を契機として、住宅防災対策を推進し「災害に強いまちづくり」を目指すとともに、高齢者や子育て世帯の住環境の向上並びに定住促進を図るため、現在「住宅リフォーム助成制度」や「住宅耐震化助成制度」を実施している近隣自治体の調査を進めるなど、創設に向けての検討を始めている。



（桐生市役所）

質問 制度創設後の所管部局は。

答弁 市民の利便性に配慮しながら、組織改革の中で、考えていきたい。

放課後児童クラブの保育料

佐藤 幸雄（政研クラブ）

質問 市内クラブの保育料は、最低七千円、最高一（放課後児童クラブ）



万二千円と聞かすが、なぜその差が生じるのか。

答弁 保育料に関して国の明確な基準がなく、市から交付する委託料の基準額が児童数により異なることが主な要因と考えられる。

質問 市長は、この格差をどのように考えるか。

答弁 就任以来、子育て支援に力を注ぐ中、多くの市民との対話の中から特に保育料の格差を実感した。諸般の事情もあると思うが、保育の質の向上とともに保育料の平準化に向けてさらに研究、努力していきたい。

黒保根地区整備

西牧 秀乗（無党派）

質問 黒保根地区内の市営住宅改修計画は。

答弁 水沼団地は建築後三十七年以上が経過しており、過疎地域自立促進計画において平成二十七年年度までに建て替える計画となっている。本宿団地も三十六年以上が経過しているため、早期に改修できるように検討していきたい。

質問 上田沢橋の架け替えと、梨木上神梅停車場線の整備は。

答弁 上田沢橋は県道内の橋であり梨木上神梅停車場線も県道であるので、今後ともあらゆる機会をとらえ群馬県に要望していきたい。



（黒保根町の公営住宅）

答弁 上田沢橋は県道内の橋であり梨木上神梅停車場線も県道であるので、今後ともあらゆる機会をとらえ群馬県に要望していきたい。

政策法務

伏木 康雄（無党派）

質問 地域競争力が強く魅力の掘り起こしに熱心な自治体ほど、政策法務に力を入れていくようだが、桐生市の取り組みは。

答弁 実情に合った独自の条例制定や法令の解釈により地域的課題を解決し、更なる発展を目指した政策の実現に努めている。

質問 市独自の条例制定の例は。

答弁 桐生川の清流を守る条例や不法投棄防止条例、

住民投票条例などを制定した。また、今年度中を目標に県内初となるパブリックコメント制度の条例化を目指している。

（桐生市役所）



請願の 審査結果

この定例会では、請願1件の審査を行い、その結果、閉会中の継続審査となりました。

◎閉会中の継続審査となった請願

付託委員会	受理番号	件名
総務委員会	第1号	公契約で働く人の「ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）」を実現し、経済成長につなげる「公契約基本法」の制定を求める意見書採択について

特別委員会を設置

特別委員会設置に関する決議3案件が議員より提出され、それぞれ可決し、3つの特別委員会が設置されました。

- 水質調査特別委員会設置に関する決議案
- 交通対策調査特別委員会設置に関する決議案
- 地方主権調査特別委員会設置に関する決議案

水質調査特別委員会

◎調査事項

- 1 渡良瀬川及び桐生川並びに市域内河川の環境・水質保全について
- 2 山元（古河）対策について

◎委員構成

委員長 佐藤 幸雄
副委員長 北川 久人
委員 人見 武男
渡辺 修
周藤 雅彦
西牧 秀乗
岡部 純朗

交通対策調査特別委員会

◎調査事項

- 1 幹線道路の整備について
- 2 公共交通の確保について

◎委員構成

委員長 新井 達夫
副委員長 山之内 肇
委員 井田 泰彦
飯島 英規
伏木 康雄
幾井 俊雄
佐藤 光好

地方主権調査特別委員会

◎調査事項

- 1 地方主権について

◎委員構成

委員長 小滝 芳江
副委員長 周東 照二
委員 庭山 由紀
森山 享大
相沢 崇文
荒木 恵司
福島 賢一
園田 恵三